

※※2019年4月改訂(第6版)
※2007年6月改訂

日本標準商品分類番号
87319

貯法：室温保存
使用期限：外箱に表示の使用期限内
に使用すること

ビタミンH製剤

承認番号	21900AMX00816
薬価収載	1976年9月
販売開始	1976年9月
再評価結果	1975年10月

※ ビオチン散0.2%「フソー」

Biotin Powder 0.2% "FUSO"

※【組成・性状】

1. 組成

ビオチン散0.2%「フソー」は1g 中日局ビオチン2mgを含む散剤である。

添加剤として乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロースを含有する。

2. 製剤の性状

ビオチン散0.2%「フソー」は白色の散剤である。

識別コード(分包品)：FS-B04

【効能・効果】

急・慢性湿疹、小児湿疹、接触皮膚炎、脂漏性湿疹、尋常性瘡瘡

【用法・用量】

ビオチンとして通常成人1日0.5~2mg(本剤0.25~1g)を1~3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【薬効薬理】

ビオチン(ビタミンH)はカルボキシル基転移に関与し、acetyl CoA carboxylase, propionyl CoA carboxylase, pyruvate carboxylaseなどの酵素の補酵素として作用する¹⁾。

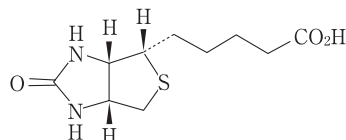
ビオチンは主として腸内細菌によって合成されるため、食餌性のビオチン欠乏症の自然発生はないと思われる。実験的欠乏症によれば卵白配合食飼育ラット²⁾(吸収障害)及び抗菌剤配合食飼育マウス³⁾(合成障害)において発育抑制、皮膚炎、脱毛、粗毛、異常姿勢及び癩れん歩行などの症状が発現する。ヒトにおいても卵白食摂取により皮膚炎のほかチアミン欠乏症に類似した症状が観察されている⁴⁾。

これらの症状はビオチンの投与によって改善することが示されている。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ビオチン(Biotin)

構造式：



分子式：C₁₀H₁₆N₂O₃S

分子量：244.31

化学名：5-[(3a*S*,4*S*,6a*R*)-2-Oxohexahydro-1*H*-thieno[3,4-*d*]imidazol-4-yl]pentanoic acid

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。水又はエタノール(99.5)に極めて溶けにくい。希水酸化ナトリウム試液に溶ける。

融点：約231℃(分解)

※※【包装】

500g

(SP) 0.5g×2,100

0.75g×2,100

【主要文献及び文献請求先】

- 1) Harper, H. A., Review of Physiological Chemistry, 16th ed., 167(1977)
- 2) Sullivan, M. et al., Bull. Johns-Hopkins, 70, 177 (1942)
- 3) Lakhanpal, R. K. et al., Proc. Soc. Exptl. Biol. Med., 121, 472(1966)
- 4) Sydenstricker, V. P. et al., J. Am. Med. Ass., 118, 1199 (1942)

※【文献請求先】扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706
(9:00~17:30/土日祝日を除く)

製造販売元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

SG-109-109B